

### 「MLA 連携の枠組み」をめぐって（続）

#### ◆ 田窪論文のポイント

##### (1) デジタル技術・ネット環境の高度化・普及

- ・「電子図書館＝書籍・論文の電子ネットワーク上での利用」を超えて
- ・具体的なイメージは？（例）Google vs. PORTA（国立国会図書館）

##### (2) MLA の差異と位置関係

- ・「博物館－文書館－図書館」という位置関係：目的、専門職、資料という差異に基づき

##### (3) 日本の抱える問題点

- ・日本の A（文書館）の弱さ
- ・社会教育における位置づけ 関連：文化（遺産）機関、記憶機関
- ・コンテンツのデジタル化に対する政策の弱さ

#### ◆ 次回（10/31）への宿題

配布する以下の論文を一読し、感想や疑問点を次回授業の最初に述べられるようにすること。（レポートなどの提出は不要。口頭でよい）

- ・安江明夫. “文化資源機関の保存マネジメント”. (テキスト『図書館・博物館・文書館の連携』第1部より)

特に、以下の点については、自分なりの考えをまとめておくこと。

- 「図 プリザベーションとコンサベーション」(p. 60) 中の各要素で、分からないものが何かあるか。
- 「5. 博物館におけるアクセス」(p. 65-68. 特に「利用者にとっての研究アクセス」についての記述) について、どう思うか。

余力があれば下記のウェブサイトにも目を通しておくこと。

- ・京都大学図書館機構 資料保存環境整備部会（一部ページは学内限定公開）  
<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/hozon/>

※ なお、**次回の授業のみ、元の教室（第5演習室）で行います**（附属図書館避難訓練のため）。次々回以降は附属図書館研究開発室で。